



經典餘師

易經

二

口 11  
2047  
12



2067  
12

周易餘師卷之二

下經

咸亨利貞取女吉

初六其拇

周易餘師卷之二

下經



咸亨利貞取女吉

初六其拇 ○ 初六咸其拇 兌下巽上 初六之象也 拇者足之末也 初六居下 故其象也 兌為澤 巽為木 澤上木下 故其象也 初六居下 故其象也 兌為澤 巽為木 澤上木下 故其象也

經典餘師

周易卷之二

六二其腓凶居吉

六二咸其腓凶居吉

腓のこころに  
足のうしろにて

九三其股執其隨

九三咸其股執其隨

往吝

下の上よりるがゆふ股を以て應見の上六咸  
待てうがう時吉

九四貞吉悔亡

九四自吉悔

亡憧々往來明從爾思

憧々意思のさまり  
亡ことつ咸の卦人の

身ふかごどり初六の拇下ふりりて動ふる六二の腓先  
てうごくふとる九三の股身ふまごりて動ふとる九四の中ふ  
りりて上ふあがるがゆふ心の位とい心の字うらむ元咸と  
る心ふかゆふ心ふかゆふ心ふかゆふ心ふかゆふ心ふかゆふ心

九五其悔无悔

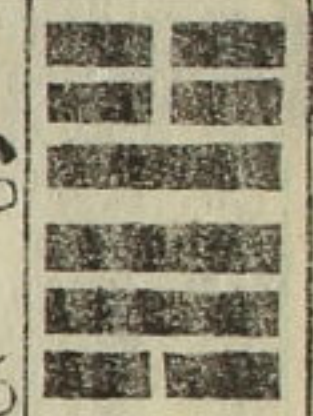
九五咸其脢无悔

脢を咸むるとつ目ふ見  
耳は聞て咸むるとつ目

上六其輔頰舌

上六咸其輔頰舌

中央之心の往しとる身は脊の肉なり心の藏の筋有る腹  
君る身私とる見聞する所道も心咸とて忘るる  
悔とることつ目ふ見  
上六兌悅の主文咸とる極見口より口舌を以て人の悦兌  
とる小人や女子の所作の輔頰舌を舌に人舌を舌に  
舌がゆふかくつる人の誠を以て人を咸せしむる  
舌をつつぬまの身と世ふまの心とつらふ吾往土地と遷れ  
るとなりこの文変どれ遷の卦より史之君子小人の  
異らぬ身とのんるふみぬる同断り



巽下上 震上上

恒亨无咎利貞利  
往攸有攸利

恒亨无咎利貞利有攸往

外卦震と  
と年長

初六恒み浚一貞  
利攸无

初六浚恒貞  
利攸无

初六浚恒貞凶无

九二悔亡

攸利

陰文下小有この所陽位ふして不正不中  
小人常小願望たざる初の應九四志

九三其徳恒  
或承之羞

九二悔亡

人情恒何の  
退屈して冥加ふ

九三其徳恒  
或承之羞  
承し貞吝

九三不恒其徳或承之羞貞吝

九四田无禽

九四田无禽

九四田无禽

六五其徳恒  
貞夫

六五其徳恒

六五恒其徳貞婦人

上六振恒

上六振恒

凶○又振と恒と

艮下 乾上

遯亨小利貞

初六尾厲勿用有攸往

六振恒凶 震の極して上ふ有不正之みさ月の恒と

振字ありて衣とふるし埃とふるるよとの

艮下 陽の上外より陰の下ふは

遯亨小利貞 世とほぐれ泰辱と身ふりけ

早く夏の時とて幾と察とて決断する之君子道と

守りて身も應變とて力と致し小の夏と身ふり

初六遯尾厲勿用有攸往 於て下

交と初とこの卦と後と遯の

六二執

九三係

之用黄牛之革莫之勝説

六二執

九三係遯有疾属畜臣

妾吉

敗軍の中ふり

九四好ハ過ル君子の吉シ小人ハ否シ

九四好ニ

九五嘉シ遯ニ過ル貞ニ吉シ

九五嘉遯貞吉

二の中正と應じて萬変中正して止留て宜き時あり

上九肥遯ニ利シ無シ

上九肥遯无不利

この爻の内に應じてかく外

乾下震上



乾下震上 乾の剛之震の動よりは

大壯貞ニ利シ

大壯利貞

大壯の時の貞守る

初九趾ニ于レ趾ニ征ニ凶ニ有シ孚ニ

初九趾于趾征凶有孚

乾の震足前

九二貞吉

九二貞吉

大壯の時の貞守る

九三小人用壯

九三小人用壯

君子用罔負厲羝羊觸藩羸其

角

九四貞吉悔亡  
藩決不羸  
輿之輓于壯

六五羊于易  
于  
喪悔无

君子ふりて心あらく物事と闘ふとる  
心ふりてはかる所をたよへ羊の性のでく角と觸まると  
藩決不羸と云ふは角枝にききゆへ引懸るる事  
輿之輓于壯と云ふは輿の輓を引懸るる事  
九四貞吉悔亡と云ふは貞正を守るときは  
悔亡と云ふは後悔なしと云ふ事

### 壯于大輿之輓

四の中と過るものなり壯なるもの  
吉なりと悔亡なるものなり又四陽進で君子の道長とると  
此の文と云ふは秦平の道をたよへて藩決のづくも決して  
觸がるの羸困なり又高大なる車の輓木の仕るる事  
進むるに勢力なり不利なる事と云ふ

### 六五喪羊于易无悔

此の文の心は下より  
四陽と云ふは柔の剛と制する事と云ふ事  
物ふあれたる事と云ふ事  
悔有る事と云ふ事  
柔の剛と制する事と云ふ事  
六五の陰柔なりと云ふ事

上六羝羊觸藩  
退不能遂  
元利輟則吉

坤下離上

晉康侯用錫馬

經典餘師

周易卷之三

六

上六の文は五の君の位なり君の位は  
下は危懼して去るが易和の道と云ふ事  
羊のつるやいと喪漸なりと云ふ事  
○上六羝羊觸藩  
觸る察する心なり又この文は震の終るに進む中不  
震と云ふは震る事なり又羊の角の枝多しと云ふ事  
觸るは退る事なり又羊の角の枝多しと云ふ事  
退不能遂と云ふは退るに能はずと云ふ事  
元利輟則吉と云ふは元利あり輟ると吉なりと云ふ事  
○坤下離上  
坤下地之離火之日光地上出ると云ふ事  
離上のやりと云ふ事  
天の中と云ふ事  
時光明なりと云ふ事

### 不能退不能遂元利輟則吉

觸る察する心なり又この文は震の終るに進む中不  
震と云ふは震る事なり又羊の角の枝多しと云ふ事  
觸るは退る事なり又羊の角の枝多しと云ふ事  
退不能遂と云ふは退るに能はずと云ふ事  
元利輟則吉と云ふは元利あり輟ると吉なりと云ふ事



坤下 離上  
坤下地之離火之日光地上出ると云ふ事  
離上のやりと云ふ事  
天の中と云ふ事  
時光明なりと云ふ事

### 晉康侯用錫馬蕃庶書曰三接

離の大明

九五の君位ふ処ると云ふ事  
次第ふさくる事と云ふ事  
晉進と云ふ事

賜て蕃庶  
畫日ふ三  
接

初六晋如  
如るる  
推

吉之孚  
孚  
裕  
咎无

六二晋如  
如るる  
愁  
其王母于受之

の君上ふまきし下の城と附順從といはれ諸侯の天王  
てくくといふ又坤の衆の庶といふ萬民上といふと  
以康とと太平安康の侯といふ能國と治といふ天子の事  
つるの大君といふ大君より國司(恩賞)と下つたま  
御電愛りといふなり車馬といふもの重といふ番庶  
多といふと救々の錫といふ書日といふとらうふ披露  
三といふの儀式ありてその事小接といふなり  
○初六晋如推如

貞吉罔孚裕无咎 晋如とて初六の吉なり  
推如とて初六の事なり

○六二晋如如るる愁 六二の吉なり  
其王母于受之 王母の事なり

母 此の如るる應の機なり 晋進の道に於て愁如り  
といふるれども六五の君と中正の徳と共同するもの

六三衆允  
悔亡

九四晋如  
如るる  
石鼠の  
屬

王母の祖母より陰の至尊といふにして離明の徳なり明徳の  
君といふこのゆえに六二の賢者も高祿といふ事なり  
六三の如るる應の機なり 六三の如るる應の機なり  
又王母とも見るるなり 賜ふ 六三衆允悔亡の  
定名の如るる例なり

○九四晋如鼫鼠負 九四の陽より四の陰位に居る不正なり  
晋入で高位  
といふるれども六五の主に親比せんと下  
の三陰の

外といふはむと稱するといふ鼫鼠の如く  
又離明の君といふ人の  
○又貞の字とたて貞正とも成るるなり



六五悔亡失得の咎悔有なきこちの晋の六五の離文明徳の君あるが

上九其角と晋の維用て邑と伐と吉咎无負

○六五悔亡失得勿恤往吉无不利

○上九晋其角維用伐邑厲吉无咎

負咎 角がけらの上おのりて

初九明夷る千飛下其翼と空君君子于行三日食不往攸有主

離下坤上



離下 坤地より外あり上は光明地下入

明夷利艱貞 君子困窮久人明夷の時節

○初九明

夷于飛垂其翼君子于行三日不食有攸往主人有言

六二明夷左股于  
夷用極馬  
壯吉

爻の九陽の外に二と三との二飛の象を取らざる昏暗を  
以て掩伏しめての如く、二の飛は二の翼と傷て  
墜下ふむと一の飛は一人のものに傷て  
君子の行はむと一の時、いつく邪知奸佞を以て沮む  
しるること、それ由り君子は早く幾とみたり夏の如く、  
三日も食せざるほどの困窮ありて、君子の早く身を  
のがせ小人の知しめば、小人の君子の態を以て何の故と  
し、どあやうきことありて、君子は早く  
夏の道理とありて、却て君子之事、小人君子と拙と  
笑の言

○六二明夷于左股用極馬壯  
吉  
六二の爻、離明の主なり。君子中正を得て身と處  
るの善、よめ世の昏暗、小の毒、免るる時節ありて、小人明  
夷傷の運數、いかに、小の毒、免るる九の足、右に  
小の毒、免るる、股の小夷、下を、小害とありて、何  
れ患の淺きことあり、君子の身中正と守り、離明の  
才知られども、明夷の毒とあり、身を受るれば、早く身を

九三明夷南狩  
得其大首  
不可負

六四九腹于入

離明の至極と上六と暗の至極と、明を以て暗と除、爻  
と、この二の聖人湯王武王の祭紂を除め、ふむと、又狩  
ふれと、民艸の田種と、この二の鳥獸を除め、ふむと、又南  
前と、離と、明の方、向て暗と除るる、暗の大首と、  
上六と、此の聖人の悪人と征討め、この大首と、誅して  
せしめ、この徒黨のものを捨たせ、この志せんと善  
化せんと急ふ、この時、此の本と、このゆえ、不疾貞正の  
か、この二の二説、大首、初爻の陽と湯武とありて、三  
爻と、設周、不帰服、この諸侯と、上爻の定まり、應  
捨絶て、初爻の賢、小應、むむと、又二説、小下卦と、一變  
得水師の意と見

○六四入于左腹獲明  
得

明夷之心于出門庭

### 夷之心于出門庭

この文、明夷の時分、小陰系を以て陰位小処、とつひその

六五箕子之明夷

### 六五箕子之明夷

利貞

上六明夷于地

### 上六不明晦初登于天後入于地

明

晦初天于登

夷の至極、初の末、元來、この文、卦の上より、高位所と本理、つゝ時、高小居、遠四方、とて、とて、然、今、明、中、入、暗、

### 離下翼上



離下 翼上

明夷、外、傷、家人、家、

家人利女貞

### 家人利女貞

聖人、帝、后、女、夫、婦、の法、則、と、め、文、王、夫、婦、

初九閑有家

### 初九閑有家

家、有、悔、亡、有、悔、亡、家、有、悔、亡、

六二 遂る攸无中  
饋ふ在貞吉

九三 家人嗃々  
悔吝吝吝  
吉之婦子嘻嘻  
終吝吝吝

六四 家と富と

大るれ吉あり

九五 王家と有ふ  
假る恤る  
吉あり

上九 子有威如  
終ふ吉あり

兌下 離上

睽 小事吉あり

經典餘師

○六二 无  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

攸遂在中饋貞吉  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

九三 家人嗃々悔吝吝吝  
吉之婦子嘻嘻終吝吝吝  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

六四 家と富と  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

九五 王家と有ふ假る恤る  
吉あり  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

上九 子有威如終ふ吉あり  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

睽 小事吉あり  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

兌下 離上  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

經典餘師  
中より家内のことあり饋  
と取帯のことあり

○六二 无

○九三 家人嗃々悔吝吝吝

○六四 家と富と

○九五 王家と有ふ假る恤る

○上九 子有威如終

○睽 小事吉あり

○兌下 離上

○經典餘師

○

九五の君不泣して異順ふして文明の才知り家と富と象あり但し富ともの疾い中げりて小欲あり吝吝吝吝

九三家人嗃々悔吝吝吝吉之婦子嘻嘻終吝吝吝

六四家と富と

九五王家と有ふ假る恤る吉あり

上九子有威如終ふ吉あり

睽小事吉あり

兌下 離上

經典餘師

○

睽 小事吉

世

初九悔亡馬  
喪逐勿  
自復惡  
人見之咎  
无

九二至于巷  
遇无

とて又家人の上卦にさすにさすりて兌沢とあるとて空  
三家の説つとも易の定準をれとの今陰爻を以て六五  
の位に居る徳を以て三四五坎難のくろくつらむれ  
也少の良とけりらつと吉るをも大夏の用務に  
可なり ○初九悔亡喪馬勿逐自復  
とわり

見惡人无咎

何復ふらば自然と用て心と決断と  
時節を自然と用て心と決断と  
きの道理と初九も陽剛なり應る位の四も陽爻なり  
元より睽けて應る事なる一と馬と一なるふとも  
むより自復と復とすのべいふ逐求むとも益ふ  
とて此らろくを以て惡人と見るとも惡いやと捨て  
悔ふにける心なり付合とあり ○九二遇主

于巷无咎

世の中の思ひの外つらりの外  
とらるりの殊々睽逢は時節  
かみ及ぶること多しめくれ剛と柔と陰と陽とを元より和  
合のゆけとくるに應和の道なり睽逢はりなり

ある時火と水と泥と石とのごとく陰陽も剛柔も各々ふ  
かりゆくこと易と見の微意口傳る九二剛中の臣に六五の  
柔弱の君より睽逢の時ゆえ忠を以て守護するといへども  
印もえがごとくも誠を以て曲巷の道と尽し  
終る善遇とるりゆきと又君主曲巷を以て遇奉ま  
つるともるる之場所るる思ひがもるるなりとありふ  
善遇君はためて吾と知あり ○六三見輿曳  
とて誠の心つねふい達して咎ふ

其牛掣其入天且劓无初有終

の性  
の卦元より三の應爻の上九ふゆべさふ九二よりみたり  
て曳ゆ牛輿と掣とめめてゆきぬ四の坎の險を以て  
る前ふとてゆきぬめも前面とてゆきぬ鼻と劓  
つけ天の髪と傷つるといふるこれ三と上と應爻を  
もども睽の時るるがゆえふかくいふるのさすれどもつたふ

三上相應とるるがゆえ ○九四睽孤遇元夫  
終りなりとあり

六三輿曳と見  
其牛掣と其入  
天と且劓と  
終有

九四睽孤遇元夫

元夫不遇交  
字子房  
答无

六五悔亡  
厥宗  
層  
何の答

上九睽  
豕  
鬼

### 交字房无咎

元夫と云元の善小長ト云るは  
正と男と云ふは  
一卦の内  
て只初爻の陽位の正と得たり睽の時節あり  
アて應与なりこれゆえ睽て孤とらとるなり  
去れどもその睽る時の陰陽和合とるものも火と  
水とのどくまはるる初と二とを應すと

### 六五悔亡

合する男同志乃中なるなり  
○六五悔亡  
君の輔佐守護とるはそれゆえ睽けしむの時といふ心の  
悔へせりて亡るるその義なりたは夏の治修が

睽合するなり又合体とるは層肉の中なる  
もの歯とるは合体とるはかしの  
て何の答なりや

### 上

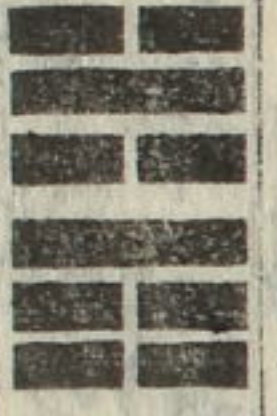
### 九睽孤見豕負塗載鬼一車先張之

### 孤後説之孤匪寇婚媾往遇雨則吉

車  
孤  
見  
豕  
負  
塗  
載  
鬼  
一  
車  
先  
張  
之

睽心のまきり心とむく時とるは  
とねむと甚大の全体六三上九の應とる然る上九  
よりせむもふさぐいなくむかゆえ吾身より睽  
己孤とらとるは豕塗と負とるは鬼の此社つるむ  
泥塗の中ふてまどつるがゆえ  
鬼怪と車不載はとらとる見と無と有と  
志ゆるふたとて人といふは  
がとらとるは先ふ引とけり後ふ強とらとる  
初のうぐい后とらとるは六三と厥とるもの心  
どあふ六三とらとるは陰陽和合  
ていつまきふたとて睽の台筵初  
うぐい后とらとるは

艮下  
坎上



艮下坎上  
艮下坎上  
艮下坎上

前ふらん処  
卦名

蹇西南不利  
東北不利  
大人見不利  
貞不吉

初六往蹇來譽

六二王臣蹇之  
躬之故匪

九三往蹇來  
反

六四往蹇來  
連

九五大蹇  
朋來

上六往蹇  
來碩

經師

蹇利西南不利東北利見大人自吉

雷水解の九二のやうに九五とするこの爻うごけど坤とま  
る坤西南より順易なるゆえ蹇の時利なりやい良  
の東北より險阻坎人小艮止也不利ありびと坎の  
主爻九五より艮の主爻九三より相對して三四五と離  
乾小大人との類なり貞正とする吉と利なり

初六往蹇來譽

この爻陰柔なり應の助なり  
蹇なりと早く幾とより時運となり知り來を  
るまると時譽なりこの爻動く離明の徳なる  
なり

六二王臣蹇之躬之故匪

應五君の爲不信より用らるるといふ元陰柔  
らうら微より坎人といふいづる王と五君を  
て忠と尽といふ柔よりかかると卦中坎の象  
ニツ有るゆえ蹇々といふ忠志のこころなり

九三往蹇來反

た先の故も匪といふなり  
來反  
とんて往時坎不落つるがゆえ蹇るなり  
とんて又くる來るが本位より正きと

六四往蹇來連

澤水困の象なり二三四の坎と四五六の兌と比  
歸來るなり  
和合の義なり又初二と同類なり  
か合連なり難と濟りんと

九五

大蹇朋來

大蹇なる中  
かゆえ二三四の坎人といふは又蹇難の主なりがゆえ  
り明來と二の應なり明君下の賢臣と己が  
助らるとして世と救ふと明類來ると時と  
惜哉六二の力柔微るん心のこころ世と益  
用吉なり

上六往蹇來碩

碩より吉なり  
大人と見らるり  
利有り

坎下震上

解西南小利あり  
往所无其来  
復て吉なり  
往  
攸有バ夙  
吉なり

見大人

上六の柔陰の本位有りて  
三と應せしめて内の佐なり  
故に往るべき  
と云ふこと  
往て正と執守る時ハ五三の應比  
得るころ碩より吉なり  
大人と見らるり  
利吉と見らるり



坎下震上

解の卦ハ蹇の爻の反側したるなり  
外に出る震ハ雷なり  
坎ハ水なり  
雷雨のとき  
陰陽和合して交感するなり  
天下の事の  
難苦と云ふ解らるるなり  
ゆえに解と名づけしなり

解利西南无所往其来復吉有攸往

夙吉

天下の乱始て治平し  
坎のくるるも  
解消るる卦意と云ふ名と西南ハ坤の方位  
坤の徳ハ寛大ニ平易なるなり  
此の大平なるも  
復て吉なり

初六咎无

九二田三狐獲黄矢得  
て貞る事吉

六三負且乘致寇至貞吝

初六无咎

位外にして民の愚る  
元より難とけき  
此より一ノ吉なり  
○九二田獲三狐得黄矢  
依かゆえに咎無  
九二の賢不任て信用し  
の事とまじり易し  
ゆえに九二の大臣猛く嚴重とて  
この小人と田つるべき  
狐の性ハ人ト  
中重坎の三柔と  
矢ハ直正なる事  
君と助むる身  
○六三負且乘致寇至貞吝

貞吉

此の事ハ難とけき  
初の追々小事  
五君政更の權  
小人有て君  
黄ハ中央の色なり  
大臣中正忠直の道  
田と云ふ事  
○六三負且乘致寇至貞吝



の至と致負ふ  
しと各る

九四而の拇と解  
明至と斯

陰柔にて陽位に居る小人ありて下の上は居る身の分限  
ありてざるありて負ふも肩に荷物といふいひやせざる  
ありて小人匹夫の身より乗とる乗興とるもとて君  
子貴人の道具とてたるとは身分中とてその美く布似  
合ふは道具とていつつと時とてと疾人とて至るといふ  
とつとつと疾人それとてうづいさうんとてそれ位  
に居るは身より乗とるやいその人真人がうなりとも各  
身より乗とるはきどとつと又貞とて心入らざるかと  
よく似合ふは位処すると善とてとて  
○九四解而

拇明至斯字

下不威應して動くそのと拇の象  
あり拇は足の太指なり威の交ふ見

小人とてざるは正しと士とてきとて明とて己ふと  
とる同じとる正しと友なり廣くうとていえるるは拇  
陰柔の小人とて君子の陽位に居るとして初の交なり  
ととる人との信向して来りてとる離の明智なり

六五君子維有解吉有孚于小人

六五九四の大臣素より王佐の才ありて六五の君とてとる  
がとて不君とてその君とるの道ありとる善人君子  
は之と維とてて用いし人不肖の人へ之と解とて  
あり君とてのとき時ハ國民信向して父母の

上六公用射隼于高

信向して奉つるなり  
○上六公用射隼于高  
解の至極して悪き  
おのり有と解と

上六公用て隼  
高墉之上于射  
之と獲る利と不  
と無

六五君子維  
解と有吉と小  
人ふ孚有

兌下艮上



兌下  
艮上

の次小損の卦なり泰とるとはとこの

此下有中... 泰の卦の三上への入り... 此下と損とて上と益と異なるなり

損有孚元吉无咎可貞利有攸往曷

之用二簋可用亨 上下にふ應じるとして

孚の有ゆえふ... 元吉... 下とて上へ益と献じ

ふ元より己と損と勿論なりそのこ... 己が功徳とてせ

る中より第一の早くその場とて... 別して貞

之小心と用て宜きとつ時誠の二つあり... 神明と亨

供物とて二つの簋とて... 全く心の誠

初九事已... 損之... 後進... 此章の意上の酌ふ任て損とて

初九事已... 損之... 酌で之を

九二貞不利... 損之... 之と益と

六三三入往則... 損之... 行則則ら其友

六四其疾且損... 損之... 喜ひ有咎无

九二貞不利... 損之... 此章の意上の酌ふ任て損とて

利貞征凶弗損且憂... 中正ありて剛徳ありの

六三三入往則... 損之... 行則則ら其友

六四其疾且損... 損之... 喜ひ有咎无

損有孚元吉无咎可貞利有攸往曷

之用二簋可用亨 上下にふ應じるとして

孚の有ゆえふ... 元吉... 下とて上へ益と献じ

ふ元より己と損と勿論なりそのこ... 己が功徳とてせ

る中より第一の早くその場とて... 別して貞

之小心と用て宜きとつ時誠の二つあり... 神明と亨

供物とて二つの簋とて... 全く心の誠

初九事已... 損之... 後進... 此章の意上の酌ふ任て損とて

六五或之小朋  
之龜克弗元吉

上九損弗之  
之益咎无負

賢者之損也六五益之のりこれ六四の疾也損し  
みざるなり疾と不善とてのどねさなりと過速な  
るを以て吉利とて喜也 ○六五或益之小朋  
のりて咎あり

之龜弗克違元吉 人君の身ありて心も貞  
虚中なり天下の賢人よりて智と献り君の明德と益  
するが故も天下服して上も違ふものあらざる君文明  
の徳と以て身と損して下も賢徳とたふさざるが  
ゆえん諸の賢人も智と献して君の徳と益とていふもの  
龜天トくも用るの蔡龜より智のふらなりとて一龜  
ももさば未だ然と知るまて十朋の龜をれを數二十之  
君の智ふれとて天下の人帰服して

○上九弗損  
損の至極なりがゆえんその志ざりて下も益あり損の卦  
元來已と損を行はざる道とて今損の至極なるを以て持  
益之无咎。貞吉。利有攸往。得臣无家

節と變て己と損弗して人と益ありこの爻象と地澤臨  
して下も臨して下と致くともこの意なり六三と應なり  
この故も臣と得も家の定なり賢徳とあるものなり  
之と刑ゆるざるなり一説する上九のくは天下執りて服  
せざるや人の心と得と以て臣と得やとていふなり九  
と内外の隔ありせざるなり孟子も献子の家無し  
とてなるやとて

震下 巽上 否の上爻下の初より次巽も泰より  
厚く上へ上へなり又陰變して陽と  
うらやめえん益と号するなり

益利有攸往利涉大川 卦象の上より下と  
惠の道と以

て下も利益一萬物と育養するなり天下につくふは下も  
りて大川と渡るなり利ありとてなり ○初

初九用て大作  
利あり

震下 巽上

為不利元吉  
吉之答元

六二或益之十朋  
之龜弗克違

于亨且吉  
于亨且吉

六三益之凶  
中行小吉

公小告小吉  
公小告小吉

六四中行告  
利

九五有惠心  
有我德

經典餘師

九利用為大作元吉无咎  
此の父の震動の  
主たる應文を

六二或益之十朋  
○六二或益之十朋  
益の或は不當中正  
心の中清く虚中して人々の智をうけゆる此の或益

之龜弗克違永貞吉  
居の一身はもろくは上帝と事して至誠と必  
しめく吉道ありとぞ。九五と天神と六二と天王と

六三益之凶  
○六三益之凶  
不中不正なり殊小震動とるの極まりゆえに凶なり

事无咎有孚中行告公用圭  
此の父陰  
柔なり

六四中行告  
○六四中行告  
益の時小當て六四柔位の正を得て君小進く君と

九五有惠心  
○九五有惠心  
易の辭も典要なりとのちとむ公と初より

吉有孚惠我德  
大臣と得ぬ孚誠より下と

上九之益也 莫之與擊也 恒凶也

乾下兌上

央王庭于揚 利也 不自告我 邑

惠益 天下の人も 君の徳 〇上九莫益之或

擊手之志 勿恒凶 利益と貪欲の極上にて

乾下兌上 央の卦有之 乾高所兌沢水

央揚于王庭 子號有厲告自邑 不利

即我利有攸往 王庭朝廷あり 君子さうんふ朝

利也 不自告我 邑

初九壯于趾 往不勝 為咎

九二惕號 莫夜 或有恤也

初九壯于趾 往不勝 為咎 乾剛を

夜有我勿恤 号今九五の君より 出で九二の大

經曲 餘師 同易の卷之三

九三頄九三頄小壯之凶有君子夬々独行兩遇濡遇濡若有咎有咎无

九四臀九四臀有履无其行次且其行次且聞言不信聞言不信

莫夜莫夜戎兵戎兵有咎有咎

九三壯于頄

有凶君子夬夬独行遇兩若濡有愠

无咎夫の時小なりて已小中も過てましく進ぶ小人

陽とされて陽とされて上九小應上九小應独行独行陰柔比

九四九四臀有履无臀有履无

其行次且其行次且牽羊牽羊悔亡悔亡聞言不信聞言不信

九五九五中中正正不不聞言不信不聞言不信

九五九五中中正正不不聞言不信不聞言不信

九五九五中中正正不不聞言不信不聞言不信

九五九五見見陸陸夬夬々々中行中行咎无咎无

上六上六號號終終无无終終小凶有小凶有

五五見見陸陸夬夬夬夬中行中行无无咎咎

九

六六无无號號終終有有凶凶

上

六无號終有凶

君子君子の心の心本本よりより夬夬々々してして小人小人とと辨辨してして行行るるのの時時也也

巽下巽下乾上乾上



巽下巽下乾上乾上

姤トク女メ壯トク勿ナク用ヨク取ル女メ  
と取ル用ル勿ス

初六キム金カネ柅ヒ于ニ繫ルる  
貞マコト有リ凶トシ見ル  
往キ收メ有リ凶トシ見ル  
羸ヒ豕ウのノ孚ヒ不レ躅ス

遇合の義二陰五陽小敵一て次弱小陰能さる人よし  
て陽さあるの象なり用て女壯るりや

姤女壯勿用取女 陰時と得て女壯るり陽也  
とらて男よるの象なり

陽外トク不レ足レて陰内メ小生ヒ陰メ以テ主ト卦ト内メ也  
壯トク不レ升ル以テ壯トクと名付ル又卦象陽の終ルて

終ルのノハメとらるル又陰の始ルて始ルるノハメとらるル  
今一人の女メと五男子ヲふハひク色ヲ以テ陽ト不レらるル也

小ヒ必ズり元陽正清ニふハひク用てこの女メ娶ル也  
○初六

繫ル于ニ金カネ柅ヒ貞マコト有リ凶トシ見ル羸ヒ豕ウ孚ヒ不レ躅ス

躅ス 柅ヒ車ヲ止ム物ヲ堅強ニ金カネ陽ノ爻ノ象ニ又  
紡車ヲ金カネ以テ造ル糸ノ柅ヒ繫ル女メ乃

夫ヲ不レ足レて象トとらるル貞マコト有リ凶トシ見ル也  
他ノ心ヲ生ズ陽ト守ル他ノ陽ト往キ凶トシ見ル也

不レ足レて象トとらるル又羸弱ニ陰メ也  
躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス 躅ス

九二トク包トク魚イサ有リ咎ナシ

无レ賓ヒ不レ利ナシ

九三トク睽ヒ小ヒ膚ヒ无レ咎ナシ  
其ノ行キ次ニ且シ厲シ无レ咎ナシ

小人ノ戒ムるハ早ク初六ハ陰メ微シるハ也  
も次弟ノ増長シて陽ト不レらるル也

○九二包有魚无咎不利賓 連刪互  
覆ル包トクのノ象ト魚イサ陰メ物ト也

覆ル包トクのノ象ト魚イサ陰メ物ト也  
今九二刑徳

の勢ヲたテ國ヲ傾スるハ美婦ノ也  
今九二刑徳

とレ實ト尚書ノ出ルのノ日ト實ト有リ也  
の義あり初の陰柔と止めさるる利吉と及び呼と

吉利トク 九  
吉キチ利リ 九  
吉キチ利リ 九

三睽有膚其行次且厲无大咎 九三

九三二四小介隔ニ志意ヲ行キとレれ

二小ヒとらるル己ノ位ヲ居ルとレれハ四ノ傷ヲ受ル也  
睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ 睽ヒ

九四包魚无凶起

九四包魚无凶起 ○九

九五包章有隕自天

九五包章有隕自天

上九其角无咎

上九其角无咎

坤下兌上



坤下 兌上

坤下 兌上 見上

萃亨王假有廟

萃亨王假有廟利見大人亨利自用

利大牲用

利大牲用 利有攸往

利有攸往

利有攸往



初六字有終不  
乃乱乃萃若號一握  
笑勿往咎无

六五引吉无  
論用利

六二萃如嗟  
无往咎无

初六有字不  
○初六有字不

終乃乱乃萃若號一握為笑勿恤往

无咎 萃の時九四權威なり衆の四小阿順たるが  
ふ初の字も乱ふ四小萃らんとするの字も終る

○六二引吉无咎乃利用

論 六二剛中の徳と以て九五の明君小信と以て今初と三  
の供とのりすもものさすれども字信と以て今初と三

○六二萃如嗟无

攸利往无咎小吝

初と二と三と皆應り三と  
五とを應りも比るも

小吝

九四大吉无

九五有位无  
匪元永貞

上六齎咨涕  
洟无

○九五萃有位无咎匪孚

有の君うれはんも萃而て上ふ

○上六齎咨涕洟无

陰柔の小人独立して高位小なり

○九四大吉无咎

下の衆の為

○六二萃如嗟无

初と二と三と皆應り三と  
五とを應りも比るも

○九五萃有位无咎匪孚

有の君うれはんも萃而て上ふ

○上六齎咨涕洟无

陰柔の小人独立して高位小なり

○九四大吉无咎

下の衆の為

○六二萃如嗟无

初と二と三と皆應り三と  
五とを應りも比るも

○九五萃有位无咎匪孚

有の君うれはんも萃而て上ふ

○上六齎咨涕洟无

陰柔の小人独立して高位小なり

巽下坤上



巽下坤上

坤上 巽下 坤上 巽下 坤上 巽下 坤上 巽下 坤上 巽下 坤上

地上の象を象とす

升元亨用見大人勿恤南征吉

六五坤順の徳を以

升元亨用見大人勿恤南征吉

初六允升大吉

初六允升大吉

初六允升大吉

初六應

升元亨用見大人勿恤南征吉 初六允升大吉 初六應

九二孚乃利用禴无咎

九二孚乃利用禴无咎

五君知

九三虚邑小外

九三升虚邑

變文地水師

六四王用岐山

亨于岐山吉无咎

六四王用岐山

六四王用

六五貞吉  
階のぼる外のぼる利なり

上六貞まこと外のぼる息まじ不まじ  
之の貞まこと于に利なりり

周易餘師卷二終

がいらり文王のとき至誠と以て岐山の衆をとき服  
するがごとくうを告してうを告してうを告してうを告して  
用る外のぼる利なりり

六五貞吉外階

陰柔也  
て五君の

位の外のぼると以て幼君の上の外のぼると以て又大臣の  
らく君の外のぼる代りて謀政をするなりたると周公孔明の  
きとつたり能九二輔佐の賢臣の外のぼる任をするなり  
又その身の外のぼる守りて貞固の外のぼる階の外のぼる利なりり  
あつて外のぼるとむとつ義の外のぼるとつて賢者の外のぼる階の外のぼる  
とつ此の外のぼるの心の外のぼる三四五互離の外のぼる名の外のぼる

有の外のぼる上六貞外利于不息之貞

外のぼるの極

陰柔身の外のぼるとつる外のぼる故の外のぼる以て只の外のぼる進の外のぼる  
とつとつめて止の外のぼるとつる外のぼる因の外のぼる轉の外のぼる下の外のぼる  
曰の外のぼる心の外のぼる動の外のぼる外のぼる徳の外のぼる外のぼる息の外のぼる  
とつとつぬ外のぼるとつる外のぼる利の外のぼるとつる外のぼるとつる外のぼる  
心の外のぼる動の外のぼる外のぼる守の外のぼる事の外のぼる  
遂の外のぼる何の外のぼる貞の外のぼる利の外のぼる吉の外のぼるなり

